

# 六甲カトリック教会報

2005.9 No.405

## 9月のお知らせ

	教会暦	教会行事
2	金	初金 7:00、10:00 ミサ
3	土	聖グレゴリオ一世教皇教会博士
4	日	年間第23主日 結婚準備セミナー第1回開始(神戸地区主催)
8	木	聖マリアの誕生
10	土	日本205福者殉教者 14:30 教会学校始業式
11	日	年間第24主日 秋の墓参(9時ミサ後) 13:00 大いに語ろう会(壮年会)
13	火	聖ヨハネ・クリゾストモ司教教会博士
14	水	十字架称賛
15	木	悲しみの聖母 14:00 ベタニアの集い
16	金	聖コルネリオ教皇 聖チプリアノ司教殉教者
18	日	年間第25主日
19	月	13:00 三日月会(ミサと総会)
20	火	聖アンデレ金と同志殉教者
21	水	聖マタイ使徒福音記者
23	金	聖ピオ(ピエトルーナ)司祭 秋分の日
25	日	年間26主日 世界難民移住移動者の日
26	月	11:00 ベビーとママの集い
27	火	聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭
28	水	聖トマス西と15殉教者
29	木	聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使
30	金	聖ヒエロニモ司祭教会博士

## 「敬老の日」と「ご聖体の年」

9月に入っても厳しい暑さが残り、体はまだ夏の疲れから回復していないかもしれませんが、秋に向かって元気が戻るよう、皆さん一緒にがんばって行きましょう。今月は「敬老の日」をお祝いします。私も74歳になりましたが、年をとることを神さまに感謝して、いくつになってもお祝いしていきたいと思っています。

今年は故ヨハネ・パウロ 世の宣言により、「聖体の年」です。ヨハネ・パウロ 世ご自身がご聖体を大切に、ごミサを捧げている姿を思い出し、感動しています。また、ご聖体の

前で祈られる姿は我々にとても深い印象を与えました。ご老人の霊性を考えると、ご聖体を中心に生活することは大きな力であると思います。ご聖体の中心はごミサです。ごミサは、イエス様とともにパンとぶどう酒のもとで、十字架上の生け贄を捧げ、その生け贄をより深く生かすことです。ごミサに与るということは決して受身的なことではなく、自ら積極的に参加することです。積極的に参加するということは、年齢や体力とは関係ありません。大切なことはその心の奉獻です。耳が遠くても、目がはっきり見えなくても、一緒に立ったり、座ったりするこ

とができなくても、大切なことはごミサに参加して、みことばに耳を傾ける、意識的に心を捧げることです。力がある限り、みことばをよく聴いて、皆と一緒に心を捧げ、ご聖体を拝領する時は、手を高く上げて、大きな声で「アーメン」とこたえます。年をとってもそのくらいはできるでしょうし、それができるだけ素晴らしいことではありませんか。年をとったからといって、ごミサに参加できない、また参加しなくてもいいと考えてはいけません。一人一人が教会に来て、ごミサに与ることは共同体全体にとって大きな力になります。年をとっても、誰かの、また何かの力になることはすばらしいことです。

個人的なことですが、ここで少し私の母の話を皆さんと分かち合いたいと思います。子供たちを巣立たせ、親の務めを果たした年老いた母にとって、一番大きな力になったことは毎日ごミサに与ることでした。幸いに教会が近く、平日のごミサも2、3回ありましたので、遅い時間のごミサに足を引きずりながらも毎日参加していました。歌うことを得意としなかった母は、

静かにごミサに与っていたようです。母が亡くなって数日後、妹とレストランで食事をしていた時のこと、あるご婦人が私たちのテーブルにあいさつに来られ、お悔やみのことばをいただきました。その時、そのご婦人はこう言われました。「お母様と親しくさせていただいたわけではなかったのですが、毎日ごミサに来られている姿は、私にとって大きな励ましでした。たいへん感謝しております。」私は、なるほど、と思いました。母は派手な形ではなかったけれど、地味な信仰の証で人々を力づけたと。母が毎日ごミサに参加することは、他の方にとっても力だったようです

皆さんも、年をとってきても、一人一人が共同体にとって大切な兄弟姉妹であることをどうぞ忘れないでください。これからも力がゆるす限り、一緒にごミサに参加して、授けられたご聖体の恵みを大切にして、生きるようにいたしましょう。

ジョン・オマリー神父

---

---

## 各 部 会 だ よ り

### 👉 壮年会

#### おおいに語ろう会

9月11日(日)13:30から

イグナチオホールにて

講師：関本雅子さん

「終末医療と尊厳死・在宅ホスピス」

壮年会メンバー以外のかたもどうぞお聴き下さい。懇親会もあります。

#### 男の料理教室

9月21日(水)10:00から

#### 例会

10月2日10:15から、No.4会議室にて

講師：高山神父さま(予定)

### 👉 婦人会

< 9月行事 >

2日(金) 初金ミサ 10:00

11日(日) 9:00 ミサ後お墓参り

< 9月掃除当番 >

2日(金) 中2・中3

9日(金) 西3・西4・西5

16日(金) 東1・東2

23日(金) 東3・東4

30日(金) 東5・中1

時間はいつでも9:00からです。よろしくお願いいたします。

例年行っておりました黙想会は養成部「第2回(10/1)祈りの道場」に共催という形でご一緒させていただきます。多くのご参加をお待ちしております。

### 👉 三日月会

9月14日(月)祝日

13:00~ 総会(その後、ミサ、講話、懇親会)

## 👉青年会

< 定例会 >

日時：9月11、25日(日)12:30～14:00

於：第3会議室

内容：聖書研究(指導：高山神父)

初めての方も是非気軽に御参加下さい！！

## 👉教会学校

夏休みは、キャンプのためにお祈りをありがとうございました。

二期の始業式は9月3日(土)14:30～です。  
二期の予定は Jesus Kids をご確認ください。

## 👉社会活動部

2日(金)11:00～ 社会活動部連絡会

初金ミサ後に始まります。今月にご相談したい  
議事が多くあります。各グループの代表者(代  
理)は必ずご出席下さい。また、ボランティアに  
興味のお持ちの方、社会活動部ってどんな事  
をしている所？と思われる方、ご自由に覗いて  
ください。

7日(水)10:00～ 手芸の集まり

バザーに向けての作品作り。手作りのお好き  
な方、仲間に入られませんか？お待ち申して  
おります。

10日(土)9:30～ 炊き出し

教会台所で準備し、用意が出来次第、小野浜  
公園に移動致します。ご協力宜しくお願い致  
します。

11日(日)15:00～16:00 シナピス神戸学習会

(於：鈴蘭台教会)

神戸地区内の社会活動グループの活動内容の  
発表の場です。今月は心のケア「WAC スピリ  
チュア神戸」、難民支援グループ「ルチア」が  
発表。この学習会を「知る」ことのきっかけ  
にしてみませんか？

15日(木)14:00～ ベタニアの集い

追ってご案内させて頂きます。

18日(日)9時のミサ後～ 手作りコーナー

イグナチオホールにお立ち寄りください。

23日(金)14:00～ おにぎり作り

須磨方面夜回りで配る為です。

## 👉養成部

残暑の厳しい毎日ですが、プログラムは秋に  
なりました。待っていた池長大司教様のご指導  
による「祈りの道場」が始まりますが、そのテ  
ーマを戴きました。

10月1日(婦人会と養成部の合同プログラム)

テーマ：「神と人との交流について」

私たちは、祈りとは、私達の側から自分や周  
囲の人の抱えている苦しみや悩みを神に見て頂  
いて、それを助けて下さるようお願いしたり、  
望みをかなえて下さるよう頼み事をする事だ  
と思っているかもしれませんが、でも、祈りはそ  
れだけではないのです。神ご自身について、い  
ろいろなことを神から打ち明けていただくこと  
も大切です。10月の道場では、創世記のはじめ  
の3章を味わいながら、どうして無に等しい私  
達に、神がご自分を打ち明けて下さるのかをじ  
っくり味わいましょう。

参考図書：池長潤著「祈りと恵みの世界」

11月5日

テーマ：「イエスの弟子となること」

イエスははじめからご自分の心に、ご自分の  
弟子の姿を思い描いておられました。その思い  
を福音書のような箇所でも包み隠さず現してお  
られます。私達はこの日一日をかけて、これら  
より徹底してイエスの弟子になる為にどのよう  
に生きたら良いのかを味わってみましょう。

時 間：両日とも午前10時より午後3時。

3時よりミサ。

場 所：両日とも大聖堂

費 用：昼食代¥500.-

申込み：10月分 9月4日(日)～9月18日(日)

11月分 10月9日(日)～10月23日  
(日)

婦人会と合同プログラムであっても男性の  
方々が沢山ご参加下さるのを期待しております。  
大司教様から直接ご指導戴くチャンスをお見逃  
しなさいませぬように。

「祈りの道場」のほかに10月15日(土)、16  
日(日)の両日午後1時から大聖堂で昨年に続き、  
雨宮慧神父様の旧約の勉強を企画しております。  
今年のエレミヤ書です。詳細は10月の教会報

と9月中旬発行のチラシをご覧ください。

## 📖 典礼部

7月典礼部例会を行い下記項目が検討された。

大聖堂でのごミサは、祭壇で司式を始められる司祭と、書見台から始められる司祭がおられます。準備に気をつけてください。準備項目は香部屋に貼っています。

オルガンについて

スピーカーの設置場所は、現状のまま。オルガン委員会を次回(10月)の評議会で承認を得て構成し、次のオルガンを検討する。

「典礼奉仕者の集い」で出た意見について

- ・聖体奉仕者はご聖体を持っている時は、礼をしない。
- ・次回は全体で意見交換ができる場を設ける。
- ・教会報にコラムを設ける。
- ・奉仕者は15分前に、香部屋で顔あわせ・確

認を行い、各自の場所に戻り準備する。

- ・祭壇奉仕を侍者会が行うときは、子供と一緒に祈りを行う。

聖体奉仕者の集いについて

日時：11月19日 10:00～12:00

場所：第1・第2会議室

指導：バレンタイン神父様

事前にアンケートを行う(9月予定)。

典礼勉強会で出た検討項目

(第5土曜日に実施)

- ・先唱者は聖体拝領の案内等、マニュアル通りに行う。
- ・会衆はアーメンと、はっきり答える。ミサを構成するのは、神の民である会衆です。

## 主任司祭よりお知らせ

### <シスター方の送別と歓迎>

#### (1) シスター佐藤道子さん(援助修道会)への感謝とお別れ

皆さま、よくご存知のシスター佐藤は約7年間に亘り、教会の受付事務や教会学校・中高生会のお世話など誠実に奉仕して下さいました。特に、リーダーたちや子供たちに対するシスターの優しく暖かい心は忘れることが出来ませんが、きっと神様だけが知っておられる犠牲も数知れず捧げられたことと思います。

9月より広島修道院に転任されることになりましたので、私たちは感謝の祈りをもってシスターをお見送りしたいと思います。教会のために祈り、またいろいろと気を配って下さり、本当にありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしております。呉々もお元気で!

#### (2) 新任・シスター上田史子<sup>ふみこ</sup>さん(マリアの宣教者フランシスコ修道会)の歓迎

9月からシスター上田が教会受付の仕事を引き受けて下さり、青谷の修道院から毎週土曜日・日曜日9:00～17:00まで通勤して下さいました。教会の仕事のために来て下さることを感謝しています。シスターは幼稚園でのお仕事に豊かな経験をお持ちですが、今回は教会の皆さまにお会いし、一緒に奉仕出来ることを楽しみにしております。普段から教会の主日ミサに参加されていまして、ご存知の方々もいらっしゃることでしょう。どうか宜しくお願い致します。

### <入門講座のお知らせ>

女子パウロ会のシスター方のご好意により、阪急三宮駅北側の聖パウロ書店2階で「キリスト教の入門講座」を始めることにしました。地理的に便利で、かつ夜の時間が都合のよい求道者のためです。書店内のエレベーターで、或いは外の階段で2階に上がったところです。20名くらいまで入ることが出来ます。利用できる聖書も置いてあります。

9月から毎月、第2木曜日・第4木曜日の夜19:00～20:30です。

ご友人やお知り合いの中で、信仰を求めている方、或いはキリスト教に関心のある方をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願い致します。

### 典礼奉仕者の集いに参加して

6月26日14時からイグナチオホールに典礼奉仕者が37名集まった。最初にバレンタイン神父様から、この教会に赴任されて気付いた事など挙げられながらお話があった。「この教会では、日曜のミサに遅刻する人が少ないのでそれは良い事です。」と話し始められ、典礼奉仕者の役割についていろいろアドバイスをいただいた。お話の後参加者は役割毎のグループに別れ、自分たちの注意すべき事、どのように奉仕すべきかについて話し合った。朗読はハッキリと読み、読むより伝える心でとか、皆が歌えるように奉仕するとか、初めての人の親切な案内とか、子供たちの成長を助ける奉仕とか、いろいろな確認が行われた。

しかし、最も共通した確認は、「奉仕者と参加者という区別はミサにはおかしい」という気付きであったように思います。つまり私たちミサに参加する人は全員キリストを中心としたキリストに招かれた弟子として参加するのであって、奉仕者が参加者に奉仕するのではない。全員が奉仕者とも言うべきなのだと思います。もし、自分の隣に初めてミサに来られた人が居たらとか、もし典礼聖歌集をもっていない人が居たら、進んで手助けし全員で歌を歌い、全員で聖なるミサに与る。そして、ミサはキリスト者の日常生活の源泉であることの認識が必要だという事の確認でした。

バレンタイン神父様が「奉仕者の行為も参列者も壁に溶け込むように自然に一体となったミサ」という言葉が新鮮でした。

このミサについての理解は、大人の信者となっていく上で欠かせないことですが、時々理解しようとして勉強や意識付けが必要なのだと思います。ぜひ皆さんも意識していただき、六甲教会のミサが素晴らしいミサになっていくことを祈るものです。  
(藤原 泰)

-----

### 「ファルージャ2004年4月」 ドキュメンタリービデオ鑑賞会(7/31)

ピース9主催(アパアバ協賛)

#### 「ピース9の集い」に参加して

ピース、ピース、ピース

「戦争は 人間の仕業です」

わたし達の罪をゆるしてください。

ピース、ピース、ピース

ゆるしと愛の行為に変えてください。

わたしたちを平和の担い手としてください。

ピース、ピース、ピース

世界をめぐるテロの連鎖

他人事ではない この罪の連鎖を

非暴力による平和によって断ち切ろう!

ピース、ピース、ピース

アパアバの若者達と共に集いができ、感謝、希望

このような平和を築く輪が広がりますように・・・

ピース、ピース、ピース

援助修道会 シスター岩崎、出口、高木(戦争体験者3名)

## 教会学校キャンプ

私は、今回のキャンプに行って、一番楽しかったことは、班対こうオリンピックでした。自然の多いわの高原では、雨もふりましたが、オリンピックの日は、晴れでした。みんな、あせだくになりながらも、一生けん命、競技に参加していました。どれもこれも、教会学校のオリジナルの競技だったので、私達も、とても楽しかったです。また、このオリンピックをとおして、みんなと仲良くなれてよかったです。小学校最後のキャンプでしたが、木の葉を見ていると、一枚一枚がキラキラかがやいて、神様の光を感じる事が出来ました。そんな事を感じる心をあたえて下さった神様、そして、そんな事を感じれる時間をきかくしてくれたリーダー方、ありがとうございました。

(6年 小谷 そよ楓)

このキャンプで一番楽しかったことは、運動会です。班のみんなでちからを合わせて、がんばりました！そして、おミサの時にたくさん大切なこと学びました。

とてもいい思い出になりました！よかったです。ありがとうございました。(4年 江見 かのん)

夕方くらくなってキャンプファイヤーが始まり、オカマとロングがかわったようふくをつけて出て来て面白いことを言うと木に火がついて急に明るくなりました。次からゲームや歌やげきは、あべリーダーと1ばんでなるみちゃんとあいりちゃんとりょうくんも出ました。「あくまの森が平和な森になったおはなし」でした。1ばんは、オリンピックでまけて、ばつゲームでもぐらおどりをして楽しかったです。お家にかえっておどっています。

まなリーダー、うのリーダー、ありがとう。

(3年 アギラル ロウエナ)

キャンプで、ながれ星を見ました。早すぎて、おねがい事が、できませんでした。また、見たいです。

(2年 しの原 がく)

キャンプは、たのしかったです。わたしがたのしかったのは、みさでした。わたしがうれしかったのは、バッタを2ひきつかまえられたことです。

みさでうれしかったことは、しんぷさまのパンをわたすことでした。わたしは、わたしてから、もうかえていいかわからなかったから、はんのリーダーに、あいずをかけてききました。そうしたら、うんといってくれました。いちにちめのみさが、いちばんながくて、つかれてしまいました。

キャンプファイヤーで、たのしかったことは、げきをみることでした。さいごにげきをみたとき、わるものがたおれたけど、どうしてたおれたかは、わかりません。

リーダーさがしもたのしかったです。リーダーがひとりずつ、ちがううたをうたって、うたをあてるげえむです。



キャンプに来てくれたみんな、ありがとう。

(1年 すずき かなで)

### 納涼の夕べ

8月20日(土)午後5時のミサの後、納涼の夕べが開催されました。まず桜井神父様の開会宣言で始まり、演奏を聴いたり、歌ったり、食べたり、ゲームをしたりして大人も子供も一つになって夏の楽しい思い出を作りました。また近隣住民の方々も参加されて、一緒に楽しんでいただき、おおいに盛り上がりました。僕はかき氷を作りながら、「六甲教会は生き生きとした開かれた教会なんだな」と再認識しました。  
(青年会 由利光彦)



<浴衣でミサ>



<金魚すくい>



<みんなで合唱>

~~~~~

### ”あなたの目には千年も過ぎ去った一日のよう” (詩篇90)

8月末日をもって7年と数ヶ月働かせていただいた六甲教会を退職することになりました。私の目には7年間も過ぎ去った1年のようです。

1年々を新鮮な心で多くの方々との関わりのなかで過ごさせていただきました。いつも未来しかない土曜学校のこどもたちの元気で明るい笑顔、中高生たちのパワー、リーダーたちのこどもたちに対する愛情とエネルギー、青年会の影の力、教会の内外で惜しみない心で働かれる信徒の方々、ゆかいな事務所のスタッフの方、それらの出会いに支えていただきながら今日までできました。あっという間に7年が経ったという思いです。支えてくださった方々、こどもたち本当にありがとうございました。今度は原爆投下の地、広島(三篠修道院)に異動いたしますが、そこで新たに会う人々と共に平和を願い、祈りのときを持つことができますようにと願っております。

最後になりましたが、様々な面でご指導いただきましたお一人お一人の神父様がたに心から感謝を

いたします。

援助修道会 佐藤道子

## 「祈りの道場」と「平和旬間プログラム」 報告と感想

### <2005年第1回祈りの道場>

7月30日英隆一朗神父様指導のもと52名の参加を得て10時～15時聖堂で行われました。「聖体の年」に因み、今回は「ご聖体を生きる」というミサの根幹に関わる大きな課題に取り組みました。エウスカリチアに関する神学的理解を深めることは大変に重要ですが、この道場ではより根源的・本質的理解に努め、私たちの日常生活の中で復活されたイエスが共に歩いて下さることに気付くことの重要性(ルカ24:13-35)、そして日々のミサの中で実在のイエスを実感すること(ルカ22:14-20)について理解を深めました。

「修練」は15分の講義、45分の黙想という形式で行われました。食事(イグナチオホール)を含めて厳密な沈黙が守られ、普段から静粛な聖堂の中は一層静寂が支配しました。参加された皆さんがご聖体の意義に思いを馳せ、静かで心豊かな一日を贅沢に過ごすことができました。3時よりのミサで頂いたご聖体もより深い感慨をもっていただくことができました。(養成部 山本恭助)

### ～感想～

何度目の開催になるのでしょうか?“沈黙”“沈黙”とあちらこちらに書かれた張り紙に忠実に、参加者のみな様には雑談やおしゃべりもなく、慣れた様子で沈黙のうちに“祈りの道場”は始められました。英神父様の分りやすく理解しやすいご指導は、誰もが知っている親しみやすい福音書の箇所を引用しながら、講話を通して自分と神との関わりとして《御言葉と生活のつながり》《神の呼びかけへの返事》《心への呼びかけへの気づき》や生活の中での神との関わりとして《日々の生活の中でどれだけ意識できているのか》《どれだけ神の愛に気づいているのか》《共に歩いて下さって、聞いて下さり、語りかけ、働きかけて下さっている神の愛への気づき》といった意識究明へと導入して頂きました。普段、繁忙で雑多な日常生活を送っている中での祈りは、御言葉を通して祈らせて頂いていても、つい、自分中心な祈りや、思いを巡らせているだけですませていることが多々あります。忙しいからこそ、ちょっと立ち止まって自分を振り返るひと時、沈黙の中で“心と身体”も沈黙させて神様との関係を見直すことの大切さを久しぶりに“祈りの道場”に参加させて頂くことで思い出させて頂きました。個人的には、沈黙は守れたものの“心と身体の沈黙”まで届かず、御言葉を深く感じるよりも、考えてしまうことで終わってしまいました。その中で教えられたことや、気づかされたこと等は、神様からの夏休みの宿題として持って帰りました。与えられた宿題をいつやろうかと思い巡らしつつも、静けさの中でゆっくりと神様との交わりの時間が持てたことは、久しぶりに贅沢な幸せなひと時でした。暑い中お世話下さった養成部の皆様に感謝！ありがとうございました。(川越明美)

偶然にも「祈りの道場」に参加できたことで、充実した一日を送ることが出来ました。なぜなら、《ご聖体》つまり永遠の命のパンについて素晴らしい黙想のできた一日だったからです。私たちはミサでパンの秘跡に与ります。つまり、永遠の命のパンをいただくために招かれます。しかし、招かれるのは私たちだけではありません。あまねく万人が招かれねばなりません。それは、祝福された5つのパンと2匹の魚ですべての人が満足したように、すべての飢えた人が平等に満たされなければなりません。これは決してやさしいことではありません。私たちは日々の生活のなかでややもすると、自分のことだけを考えがちですが、イエスは“あなた方が与えなさい”と言われます。私に出来るので



しょうか。そのことを黙想した一日でした。神に感謝です。

(垂水教会 三宅成典)

### <平和旬間プログラム>

8月6日にオープニング、85名の方に参加頂き、講演は東洋思想家の境野勝悟先生による「日本のこころ」というタイトルで行われました。大らかでともすると節操に欠ける多神教の思想が言語体系の中にまで組み込まれている日本社会において、ただ一つの創造主を神とし、人口のわずか1%を占めるに過ぎないキリスト者が信仰をどのように伝えるべきなのか、軽妙な笑いだけでは済まされないと感じました。ミニコンサートは年毎に磨きがかかっています。選曲が素晴らしく、最後に合唱団が歌った「兄弟のように」は去年の「鳥のうた」を聞いた時のように心がうたれました。世界中が兄弟として共に住む神の国を待ち望みます。

7日午後1時からプロテスタント、カトリックの友が一つになって平和感謝礼拝を持ちました。イエスを慕う人々の思いは教派を超えて一つであることを改めて実感した集いでありました。70名の方が参加され、「平和=和解」のテーマのもと、説教は神戸聖書教会の水野努牧師から戴きました。聖書はイザヤ26:12-13、マタイ6:12-14が朗読され、主の赦しが無条件の慈しみ溢れるものであることを心に深く感じつつ、他人を赦すべきことが説かれました。

(養成部 山本恭助)

### ~ 感 想 ~

#### <講演>

境野先生の講演は、日本語がそれぞれに持つ意味の深さ面白さを軽妙に話して下さいました。例えば「おかあさん」「かかさん」は生命を生み出す母親に、かっかと燃える太陽の勢いをみて出来た言葉でした。朝夕太陽に手を合わせる等、沢山の神々を抱き込んでいる日本の社会にあって、ただ一つの創造主を神とするキリスト者は、この信仰をどのように伝えるべきなのか、それともその都度自分に都合のいい、自分の願いを聞いてくれそうな神を拝む事に躊躇しない社会にあって、いつまでも1%のキリスト者に甘んじている事を「仕方がない」と諦めていいのか、軽妙な笑いもいつか凍りつく寒さに変わってゆきました。

#### <ミニコンサート>

今年の平和旬間の初日、六甲混声合唱団の面々は、練習時より本番の方がよかったとまたしても言われながら、練習不足の不安を振り払い、作者の温かい詩の心を心として一所懸命歌いました。「お医者さんでもクラスでも……」何でもかんでも好きになるのは至難の業ですが、すべては神様がおつくりになったものと信じ、皆の心が、行いが、他者を受け容れる広い温かいものとなりますようにとの思



いで、この四曲“地球家族”“みんなをすきに”“Believe”“兄弟のように”が選ばれました。

たまたま配給された一個の卵を一家四人で分け合って食べた、かつての戦いの日々より、競い合い、いがみ合っている今の世の中の方が平和と言えるでしょうか。「兄弟のように共に住むのは美しく楽

しい……」と私たちが希求する平和をめざして、皆でこれらの詩の心を歌い続けていきたいと思いま  
す、地球家族のように。 (宗行春子)

## 信 徒 動 静

【洗礼】おめでとうございます

8月1日 アグネス Y . M  
(32-灘区)  
8月1日 コルベ Y . S  
(32-灘区)  
8月15日 アシジのフランシスコ S . Y  
( - )

【帰天】永遠の安息をお祈りいたします

8月11日 アンナ・マリア H . N  
8月12日 セシリア K . N  
8月15日 ヨゼフ I . M  
8月15日 マリア Y . K  
8月19日 N . B

各信徒のお名前の下に付記した番号、地区名は、六甲教会地区会の地区区分による新入、転入、転居先です。  
地区世話人の皆様のご確認をお願いします。

## 📖 図書紹介

『栄光への旅立ち：函館トラピスチヌの修道女、メール・ベルクマンズの生涯』

トマス・マートン著 / 木鎌安雄訳  
サンパウロ刊

この本は明治時代、函館に厳律シトー会が創設されたのを機会に派遣された一人のフランス人トラピスチヌの生涯について書かれたものです。貧しさの中で生まれ、修道院の学校を出て、そのままトラピスチヌ修道院に入ったベルクマンズは 26 歳の時、函館の修道院に派遣されます。船でマルセーユより長崎まで、汽車で青森まで、船で函館まで、そこから馬車で修道院に着きます。冬は雪が吹き込んでくる鶏小屋と呼ばれていた修道院（写真掲載）を改装し、日本人の志願者を迎え入れて、修練長として働きます。やがて彼女は、肺結核にかかり、39 歳で亡くなります。

函館の天使園の創立者と言えるベルクマンズの生涯については、日本に来るまでの生活はフランスの修道院に記録が、日本に来てからの生活は、当時の当別のトラピストの司祭の覚書があり、それによってマートンが書いたものです。ベルクマンズの働きは、キリストの教えた貧しさの中で生きることでした。驚いたことに彼女は、カルメル会の小さきテレーズを信心の模範としていました。なぜなら、まだ小さきテレーズが列聖される以前のことだからです。また彼女のナショナリズムを伝えるおもしろいエピソードもあります。第一次世界大戦中、ドイツの軍艦が函館に入港します。彼女はフランスと戦っているドイツの水兵の世話をするのに少し抵抗を感じますが、旅人の中にキリストを見る会の精神で、ドイツの水兵たちを助けます。

彼女の生涯はキリストに倣った生涯でした。彼女の死後、彼女の遺物が世界の各地の修道院に渡り、それによっていくつもの奇跡が起きています。しかし、列聖されることなく、天使園の墓地に葬られているのは、そのまま彼女の謙遜な生涯を示しています。また、本書は、明治期の日本のカトリック教会史の一資料でもあります。 (木鎌安雄)

教会報 10 月号の発行は、10 月 2 日(日)です。  
編集会議は 9 月 25 日(日)です。  
記事原稿は、9 月 18 日(日)正午までに信徒会館事務室  
へご提出願います。 (広報部)  
<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会  
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21  
電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6  
発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父  
10 編 集 広 報 部